

300名の皆様にご参加頂きました。東日本大震災から5年が経過し、地域によっては以前の医療が十分に提供できないところも多い現状の中、めまぐるしく変わる医療制度改革への対応、各医療機関での問題点や課題などをそれぞれの立場から発表頂きました。

一般演題では37題(口演32題、ポスター5題)、各セッションでは活発なディスカッションが行われました。また、ランチョンセミナーでは手稲渓仁会病院 外科部長の中村文隆先生、特別講演では、日本医療安全調査機構常務理事の木村壯介先生、郡山市長 品川万里様、岩手医科大学医歯薬総合研究所看護・政策研究部門教授 嶋森好子先生にご講演頂きました。

本学術集会にあたり準備と運営にご支援とご尽力を頂きました皆様に御礼申し上げます。

第7回岩手県支部学術集会

学術集会会長：岩手県立中部病院院長 遠藤秀彦



会場風景

2016年9月24日(土)、岩手県盛岡市の岩手県医師会館において、第7回日本医療マネジメント学会岩手県支部学術集会を開催しました。

テーマを「地域包括ケアとヘルスケア・イノベーション」とし、県内外から210名の参加を頂きました。

特別講演では国立病院機構東京医療センター総合内科医長の本田 美和子先生に「優しさを伝えるケア技術：ユマニチュード®」と題して講演していただき、増加する認知症に対するケア技術等についてお話しいただきました。パネルディスカッションではテーマを「地域包括ケアとこれからの医療」とし、其々異なる立場の5名から発表いただいた後、総合討論しました。ランチョンセミナーは宮城県涌谷町町民福祉センター長の青沼孝徳先生に「涌谷町における地域包括ケアの取り組み～終末期がん患者を地域で看る～」と題して20年以上にわたる地域包括ケアに対する取り組みを紹介していただきました。

一般演題は20題で5つのセッションに分けて発表していただき、大変内容の濃い充実した学術集会になりました。

開催にあたりご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

第17回岡山県支部学術集会

学術集会会長：倉敷中央病院院長 山形 専

2016年10月8日(土)に倉敷中央病院の大原記念ホールにおいて、「地域包括ケアの実現に向けて～みん



会場風景

なで考える医療のかたち～」をテーマに開催いたしました。本会は、医療従事者と市民とのコミュニケーションにスポットをあてました。

当日は秋晴れのもと188名の参加をいただきました。

特別講演では、studio-Lの山崎 亮代表から公園や美術館、病院の市民参加型の再生や移転について計画から実施にいたるまでの事例を面白く、コミュニケーションのコツについて披露いただきました。

ランチョンセミナーでは、魚沼市立小出病院の布施克也院長から、魚沼市の病院再編を進めると同時に、2011年から地域医療魚沼学校を開設し行政や大学と共に町内会、学校での啓発活動により市民と地域完結型医療や糖尿病、禁煙にすばらしい成果をあげていることをお話しいただきました。

シンポジウムでは、県内の取組みに加え大牟田市の白川病院、猿渡進平氏から認知症の模擬患者による見守る意識を醸成する活動を発表いただきました。

さらに口演14題、ポスター発表14題、クリティカルパス2題と応募をいただき、盛会に終わりました。

第16回北海道支部学術集会

学術集会会長：旭川赤十字病院院長 牧野憲一



会場風景

2016年10月9日(日)に旭川市大雪クリスタルホールにて日本医療マネジメント学会第16回北海道支部学術集会を開催させて頂きました。

3連休の中日にも拘らず、北海道内各地から152名の参加を頂きました。今回のテーマは「地域で高めよう医療の質」と題して開催しました。一般演題は24題で5つのセッションに分けて口演発表して頂きました。大変質の高い演題が多く、熱心な議論が展開されました。ランチョンセミナーは東北大学大学院教授 藤森研司先生に「北海道のがん診療の状況 ～National Databaseから見る～」の演題名で、高齢化社会を迎えた各地域のがん医療が2次医療圏毎に完結できているのか、今後の医療提供体制はどうあるべきかという示唆に富むご講演を賜りました。特別講演は名古屋第二赤十字病院副院長野口善令先生に「名古屋第二赤十字病院の倫理コンサル